

# 山梨県衛生環境研究所年報

平成 30 年 第 62 号

---

Annual Report of the Yamanashi Institute  
of Public Health and Environment

No. 62, 2018

山梨県衛生環境研究所

## はじめに

山梨県衛生環境研究所は、県の衛生・環境に関する科学的・技術的中核機関として、感染症や食中毒、食品や飲料水、大気や水環境の保全など、公衆衛生の幅広い分野で試験検査や調査研究等に取り組んでいます。

平成30年度を振り返りますと、災害級の暑さや、豪雨、地震による災害が発生しました。また、風しん届出患者数が増加し、追加的対策がとられているところです。県内では、全国で平成24年以降の発生がなかった、赤痢菌による集団食中毒の発生がありました。このような事例に対し当研究所は、保健所、医療機関などの関係機関と連携しながら、迅速な対応を行い、科学的根拠となる結果を提供してきました。

近年は国際化と交通網の発達により、地球の裏側で起こった感染症などが国内で問題となる時代となり、環境問題も多様化、複雑化及び広域化が進んでいます。2020年に開催される東京オリンピック、パラリンピックとその先を見据え、県民の健康と生活を守るための当研究所の果たす役割の重要性を強く感じております。

新たな時代「令和」が幕を開けました。この新たな時代令和においても、県民の皆様の期待に応えられる研究所を目指し、関係機関と連携しながら、情報提供に努め、更なる試験検査・調査研究の機能強化、危機管理能力の向上を図って参りますので、一層の御理解と御支援をお願いいたします。

ここに、平成30年度の調査研究成果と業務概要を「山梨県衛生環境研究所年報第62号」として取りまとめましたので、御高覧の上、御指導・御助言をいただければ幸いに存じます。

令和元年12月

山梨県衛生環境研究所

所長 大澤 かおり

# 目 次

I	組織と沿革	1
II	業 務 報 告	
	企画情報科・総務スタッフ	2
	生活科学部	8
	微生物部	10
	環境科学部	13
III	資 料	15
IV	論文抄録および学会発表	29
V	研 究 報 告	31
	石和・春日居温泉地域の温泉資源変化に関する研究	32
	果実中残留農薬試験における「妥当性評価不適」を起こす要因の検討	35
	ぶどうの品種間における残留農薬試験の妥当性評価に及ぼす影響	39
	国内養殖カンパチにおける <i>Unicapsula seriola</i> の浸潤状況調査	42
	収去食品からの第三世代セフェム系及びカルバペネム系 薬剤耐性大腸菌群の検出状況	44
	全数把握対象疾患となった百日咳の症例解析	46
	県内におけるノロウイルスの検出状況	49
	山梨県におけるインフルエンザウイルスの検出状況(2018～2019)	52
	葉状地衣類の大気汚染指標性を活用した 小・中学生を対象とした環境学習の実施について	55
	山梨県内の微小粒子状物質(PM <sub>2.5</sub> )汚染状況について(第3報)	60
	水生植物による水質浄化に関する研究	67